

平成19年度  
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会  
(春季定例会)の開催結果について  
**記者発表資料**

**利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会(春季定例会)開催される  
今後の対策等について確認**

- 開催状況 日時：平成19年4月20日(金)10:00~11:00  
場所：国土交通省関東地方整備局 14階 災害対策本部室  
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、  
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、  
群馬県、栃木県、水資源機構  
協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
- 現状と今後の見通し(詳細は、別添概要書参照)
  - ・ダムの貯水状況 平年並み以上
  - ・積雪の状況 山岳部以外では、平年より早い消雪
  - ・今後の見通し ダムからの補給開始が平年より早まる見込み
- 今後の対策(詳細は、別添概要書参照)
  - ・ダム等水資源開発施設については、きめ細かな水運用を行っていく。
  - ・必要に応じて、節水協力の要請と取水制限等の機動的な対応を行っていく。

平成19年4月20日(金)  
利根川水系渇水対策連絡協議会  
(事務局：関東地方整備局河川部)

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ  
神奈川建設記者会、東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会  
茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問		い		合		わ		せ		先	
国土交通省	関東地方整備局	河川部									
〒330-9724	埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	さいたま新都心合同庁舎2号館		水政調整官	塚本	(内線)	3515				
電話(代	表)	048-601-3151		水政課長	小島	(内線)	3551				
(水政課夜間直通)		048-600-1334		河川環境課長	富岡	(内線)	3651				
(河川環境課夜間直通)		048-600-1336		河川環境課長補佐	林	(内線)	3652				

# 平成19年度第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (春季定例会)の開催結果について(概要)

## 1. ダムの貯水状況・積雪状況と今後の見通し

首都圏の水ガメである利根川上流8ダムと鬼怒川上流3ダムの4月19日時点の貯水量は、表のとおりであり、平年並み以上です。

	貯水量(貯水率)	平年比	備考
利根川上流8ダム (4月19日9時)	3億1,511万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> (68%)	95%	平年並み
鬼怒川上流3ダム (4月19日0時)	1億6,998万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> (94%)	107%	平年を上回る

今冬の利根川上流域の積雪状況は、表のとおりであり、暖冬の影響もあり奈良俣ダム地点で平年より1ヶ月早い消雪、尾瀬沼地点で平年の9割程度となっています。

	積雪深 (平年比)	累加降雪量 (平年比)	備考
奈良俣ダム地点 (4月19日9時)	0cm (平年45cm)	743cm (61%)	本年は、平年(5月17日)より1ヶ月早い4月12日に消雪しました。
尾瀬沼地点 (4月19日9時)	164cm (85%)	933cm (68%)	現在、平年の9割の積雪(平年の消雪は、6月15日)

今後、奥利根5ダム(矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、菌原ダム)、渡良瀬貯水池は、融雪水により満水になる見込みですが、流域全体としての融雪量が少ないと見込まれることから、ダムからの補給が早まることが予想されます。また、下久保ダム、草木ダムについては、融雪水がほとんどなく、融雪水により満水になることは期待できません。このため、今後の降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも考えられます。

## 2. 今後の対策

今後、本年の利根川上流域の積雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や積雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

利根川渇水対策連絡協議会としては、現在のダム等の水供給能力が、首都圏の水需要の大きさに対して十分とはいえない状況にかんがみ、さらに幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。どうぞご利用下さい。

- ・利根川上流8ダム 電話番号 027 - 255 - 5692
- 五十里ダム 電話番号 0288 - 78 - 0440
- ・鬼怒川上流3ダム 川治ダム 電話番号 0288 - 78 - 0908
- 川俣ダム 電話番号 0288 - 96 - 0288

ホームページでもダムの情報をお届けしています。

<http://www.ktr.ml.it.go.jp/> (首都圏の水資源情報 他)

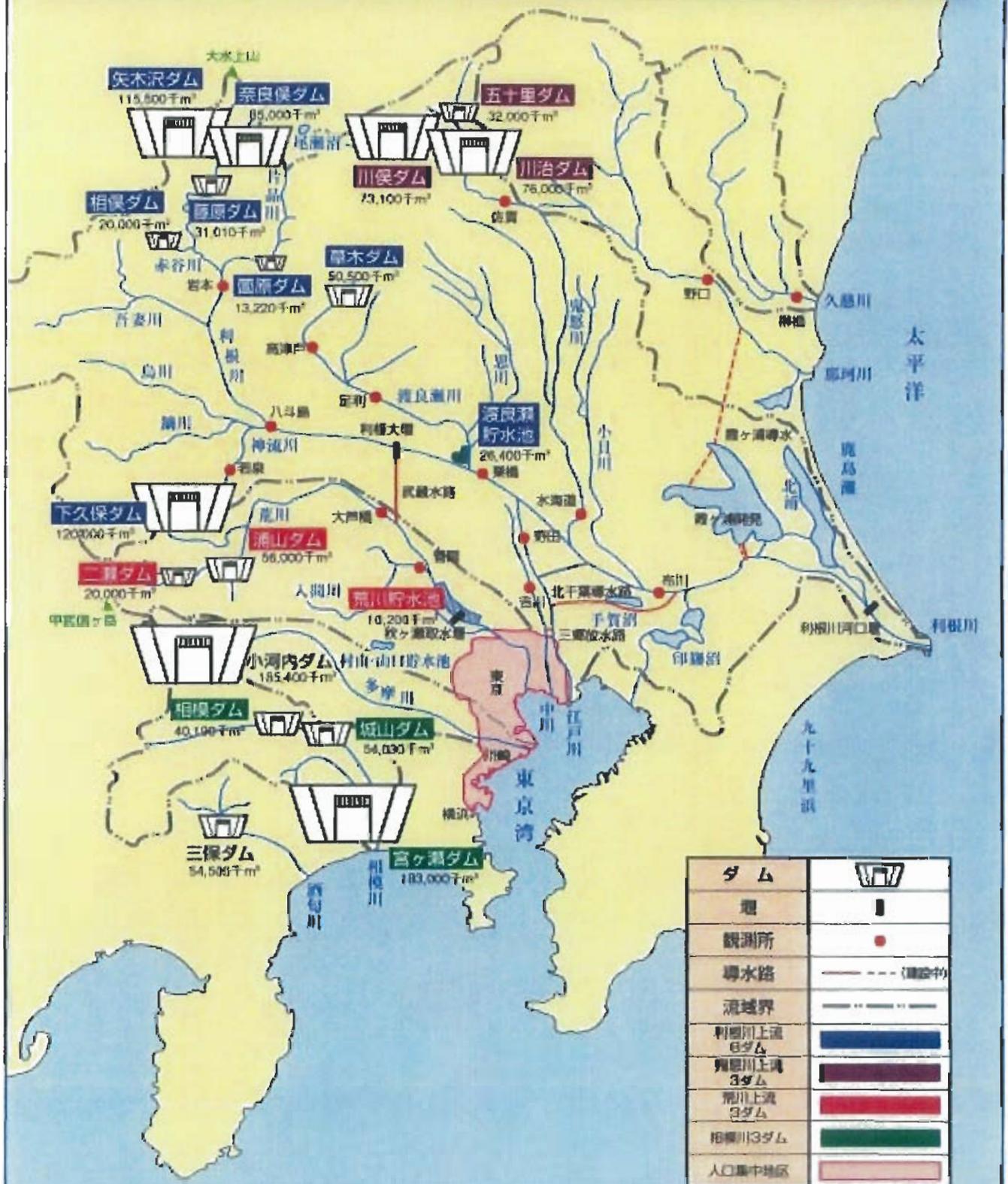
## 利根川水系治水対策連絡協議会委員

会 長	国土交通省関東地方整備局長
委 員	国土交通省関東地方整備局副局長
"	国土交通省関東地方整備局河川部長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部長
"	農林水産省関東農政局農村計画部長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部長
"	"    建設局河川部長
"	"    水道局総務部長
"	千葉県県土整備部長
"	"    総合企画部長
"	埼玉県県土整備部長
"	"    総合政策部長
"	茨城県土木部長
"	"    企画部長
"	群馬県理事（県土整備担当）
"	"    理事（企画担当）
"	栃木県県土整備部長
"	独立行政法人水資源機構理事（管理担当）
"	"    管理担当部長

## 利根川水系治水対策連絡協議会幹事

幹事長	国土交通省関東地方整備局河川部広域水管理官
幹 事	国土交通省関東地方整備局河川部河川情報管理官
"	国土交通省関東地方整備局河川部水政課長
"	"    "    河川計画課長
"	"    "    河川環境課長
"	"    "    河川管理課長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部地域経済課産業立地室長
"	農林水産省関東農政局農村計画部農村振興課長
"	国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長
"	"    利根川下流河川事務所長
"	"    江戸川河川事務所長
"	"    霞ヶ浦河川事務所長
"	"    渡良瀬川河川事務所長
"	"    下館河川事務所長
"	"    高崎河川国道事務所長
"	"    利根川ダム統合管理事務所長
"	"    鬼怒川ダム統合管理事務所長
"	"    荒川上流河川事務所長
"	"    京浜河川事務所長
"	東京都建設局河川部計画課長
"	"    都市整備局都市づくり政策部広域調整課 水資源・建設副産物担当課長
"	"    水道局総務部施設計画課長
"	千葉県県土整備部河川環境課長
"	"    総合企画部水政課長
"	埼玉県県土整備部河川砂防課長
"	"    総合政策部土地水政策課長
"	茨城県土木部河川課長
"	"    企画部水・土地計画課長
"	群馬県県土整備局河川課長
"	"    土地・水対策室長
"	栃木県県土整備部河川課長
"	独立行政法人水資源機構管理事業部管理企画課長
"	"    利根導水総合管理所長

# 関東地方の主要な河川と水資源開発施設



ダム	
堰	
観測所	
導水路	(建設中)
流域界	
利根川上流6ダム	
荒川上流3ダム	
相模川3ダム	
人口集中地区	

注：ダム名下の添え書きは貯水容量

## 利根川上流ダム群等の現況と今後の対策（案）について



奈良俣ダム管理所より尾瀬方面を望む(H19年4月12日撮影)

平成19年4月20日

関東地方整備局

# 1 . 利根川上流ダム群等の現況

## 1 ) 利根川水系

### ( 1 ) 降水量

平成 1 8 年の利根川栗橋上流域の降水量の特徴は、1 月から 6 月は平年並の降雨となり、7 月は平成 18 年 7 月豪雨の影響により 3 3 1 mm ( 平年 1 9 4 mm ) と平年を大幅に上回り、7 月の降水量としては、昭和 2 3 年以降で 2 番目に多い降水量となりました。

8 月、9 月は平年を下回る降水量となりましたが、1 0 月から 1 2 月は、平年を上回る降水量となりました。

平成 1 9 年に入ると少雨で、1 月と 2 月、3 月は、それぞれ 3 4 mm ( 平年 4 4 mm )、2 1 mm ( 平年 4 7 mm )、3 8 mm ( 平年 6 7 mm ) と、いずれも平年を下回りました。1 月から 4 月 1 8 日までの累加降水量は 1 4 1 mm ( 平年 1 月 ~ 4 月までの累加 2 4 6 mm ) と平年の 5 7 % となっており、昭和 2 3 年以降で 2 番目に少ない降水量となっています。( 図 - 1、表 - 1 参照 )

図 - 1



表 - 1 利根川栗橋上流域平均降水量

	単位 (mm)												合計	摘要
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏湯水
平成 2 年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	"
平成 6 年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	"
平成 8 年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏湯水
平成 9 年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬湯水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏湯水
平成18年	46	68	57	75	117	176	331	126	180	218	97	123	1,614	
平年 (S23-H18)	44	47	67	88	117	176	196	208	209	124	59	37	1,372	
平成19年	34	21	38	48									141	
平年比 (%)	77	45	57	54									10	

平成 1 9 年 4 月 1 8 日まで

- ・ 利根川取水制限実施月 ( 一時緩和含む )
- ・ 栗橋上流域面積 16,840km<sup>2</sup>

(2) 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪状況

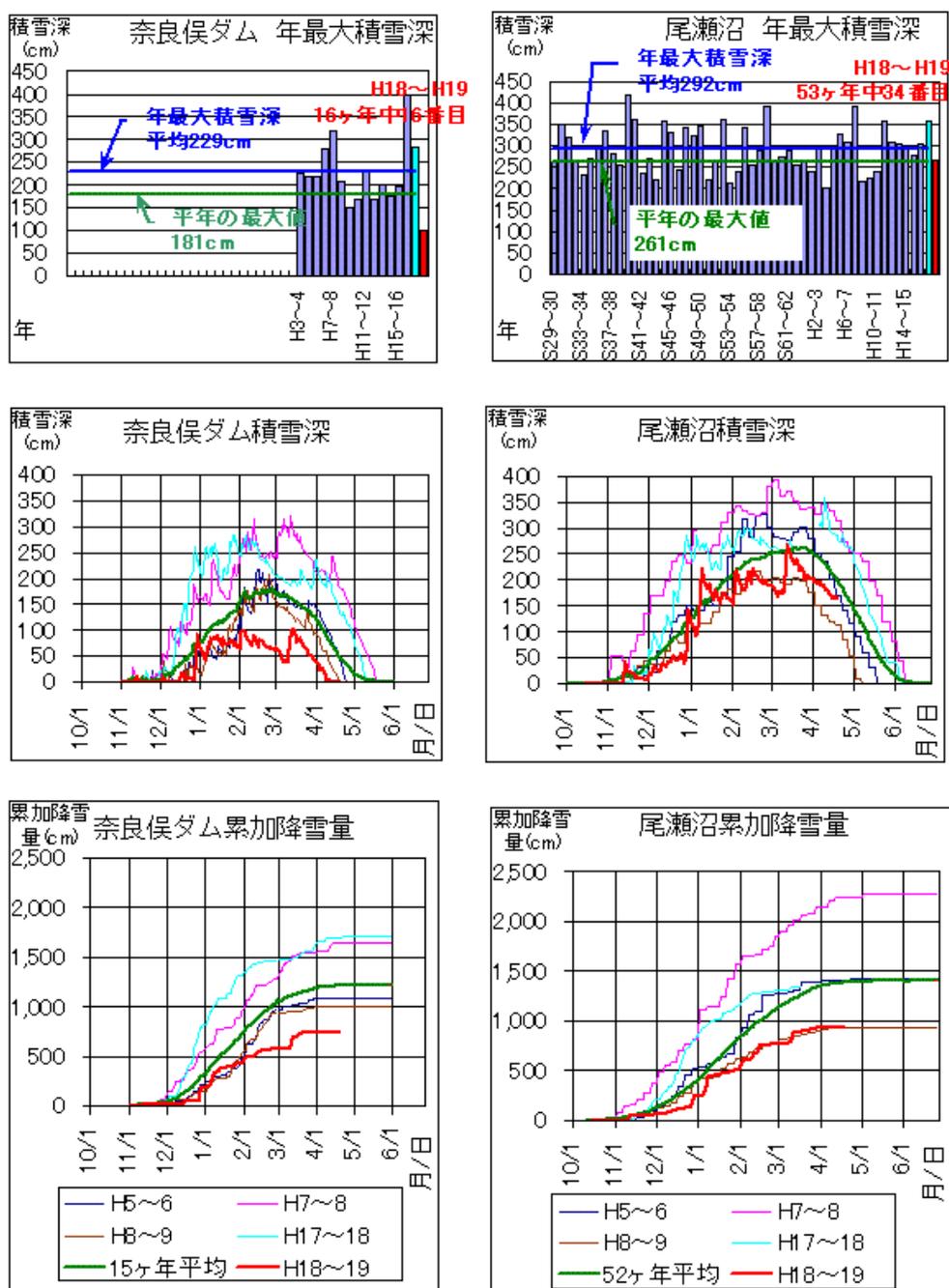
利根川上流域の降雪状況は、3月10日迄は少雪が続き、奈良俣ダム地点の積雪深は平年の23%、尾瀬沼地点の積雪深は平年の68%と平年を下回っていましたが、3月11日からの降雪により、奈良俣ダム地点では平年の66%、尾瀬沼地点では平年値まで回復しました。しかし、過去最小の積雪となった奈良俣ダム地点の積雪は、平年より約1ヶ月程度早い4月12日に消雪が確認されました。

平成19年4月19日9時現在の尾瀬沼地点の積雪深、累加降雪量は、それぞれ、164cm(平年の85%)、933cm(平年の68%)と平年を下回っています。(表-2、図-2参照)

表-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図

観測所名	時 点	日降雪量	積雪深	今期最大積雪深	累加降雪量
奈良俣ダム地点	平成19年4月19日9時現在	0 cm	0 cm	101cm(3/14)	743 cm
	H3年度～H18年の4月第4半旬末平均値		45 cm		1,209 cm
尾瀬沼地点	平成19年4月19日9時現在	1 cm	164 cm	266cm(3/13)	933 cm
	S29年度～H18年の4月第4半旬末平均値		193 cm		1,373 cm

図-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図



過去のデータは半旬末の値

平成19年4月19日9時現在

(3) 各観測所の積雪深の状況

奥利根の積雪深は、標高の低い観測所では、消雪となっていますが、標高の高い観測所では、平年の5割～9割の積雪があります。  
(図-3、図-4参照)

図-3 積雪観測所位置図

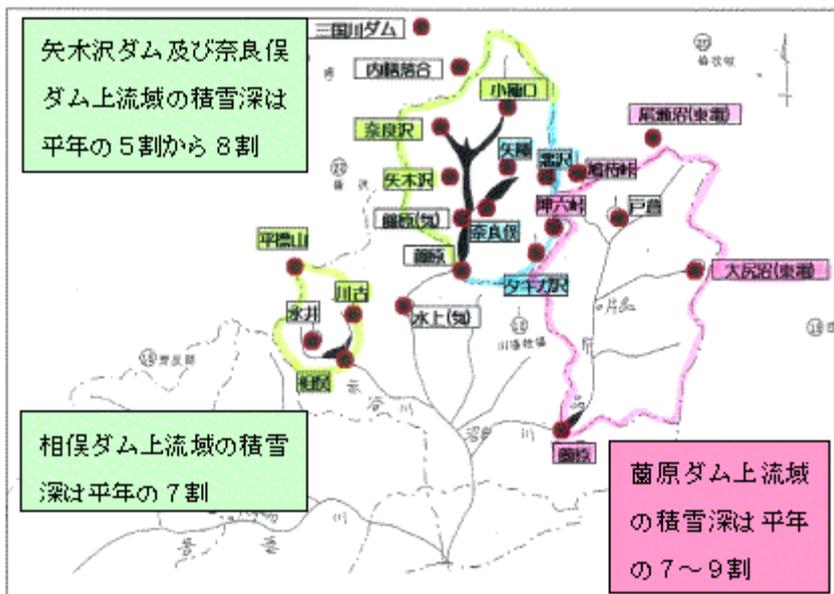
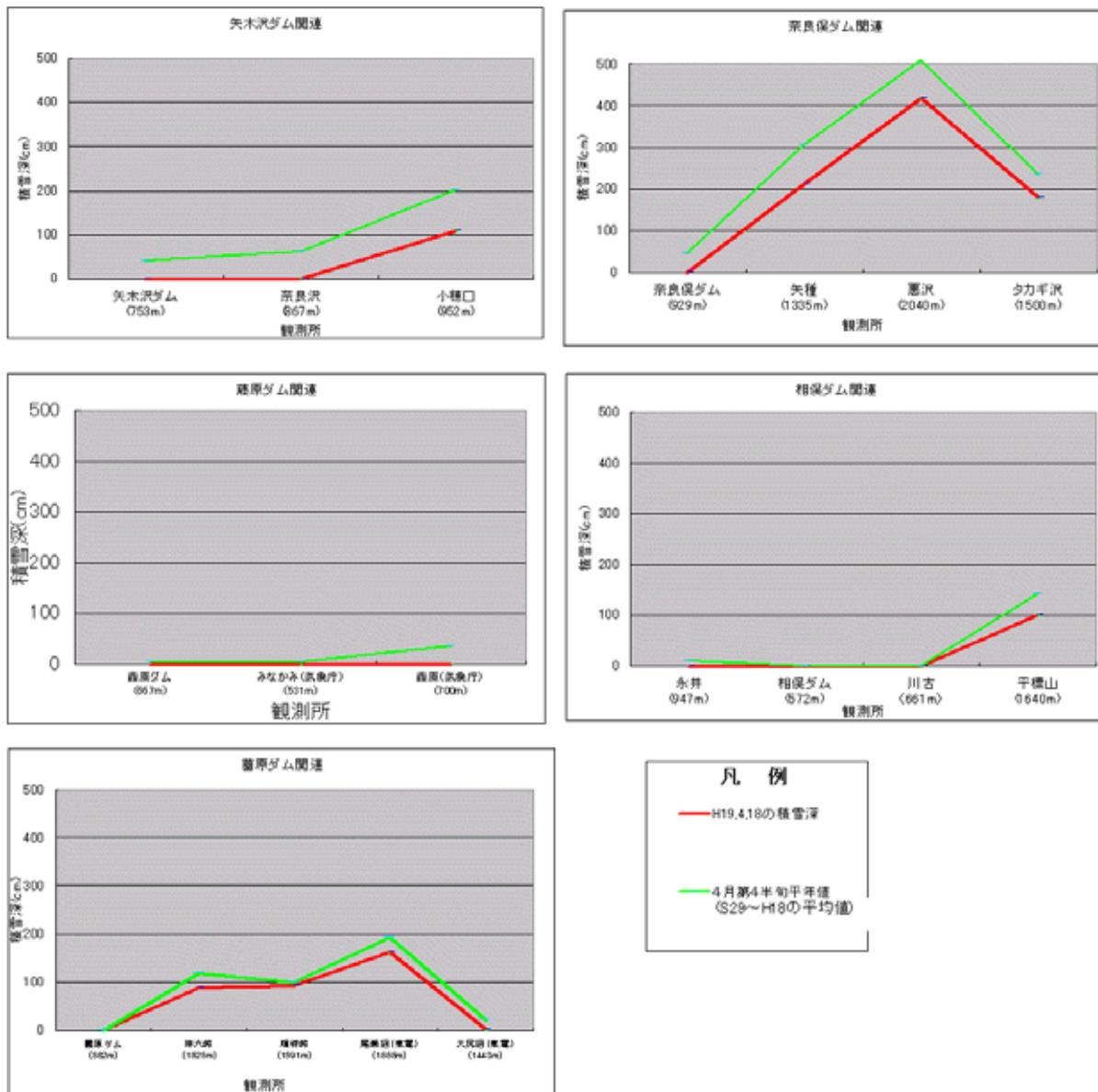


図-4 各観測所の積雪深状況



平成19年4月18日9時現在

(4) 利根川上流ダム群の貯水状況

平成18年の利根川上流8ダムは、前年の11月から補給が続き、2億374万m<sup>3</sup>を補給した結果、3月17日には8ダム体制となった平成4年度以降で2番目に少ない貯水量1億5,170万m<sup>3</sup>、貯水率33%まで低下しました。その後、融雪の貯留等により、5月17日には下久保ダムを除いて、ほぼ満水(3億9,892万m<sup>3</sup>、貯水率86%)となりました。

以降補給となりましたが、夏期制限に移行してからもほぼ平年並みで推移し、7月22日には梅雨前線(平成18年7月豪雨)の影響により、3億4,092万m<sup>3</sup>、貯水率99%と満水となりました。

8月に入ると少雨の影響により再び補給となり、1億672万m<sup>3</sup>を補給した結果、9月11日には貯水量2億3,026万m<sup>3</sup>、貯水率67%まで低下しました。それ以降、降雨の影響に伴い貯水量は回復傾向にありましたが、非洪水期に移行した10月に入ってからは、前線や低気圧の降雨により、貯水量は大幅に回復しました。また、12月にも降雨がありこの時期としては、平成4年以降で最も多い貯水量となりました。

平成19年に入ると、少雨の影響で河川流況が減少し、1月19日から補給となり、3月28日までの間に、矢木沢ダムの容量を超える約1億3,000万m<sup>3</sup>の補給を行いました。

以降、降雨や融雪水の貯留に努め、平成19年4月19日9時現在の貯水量は、3億1,511万m<sup>3</sup>、常時満水容量4億6,163万m<sup>3</sup>に対して68%、平年の貯水量3億3,268万m<sup>3</sup>に対して95%と、平年並みとなっています。(表-3、図-5参照)

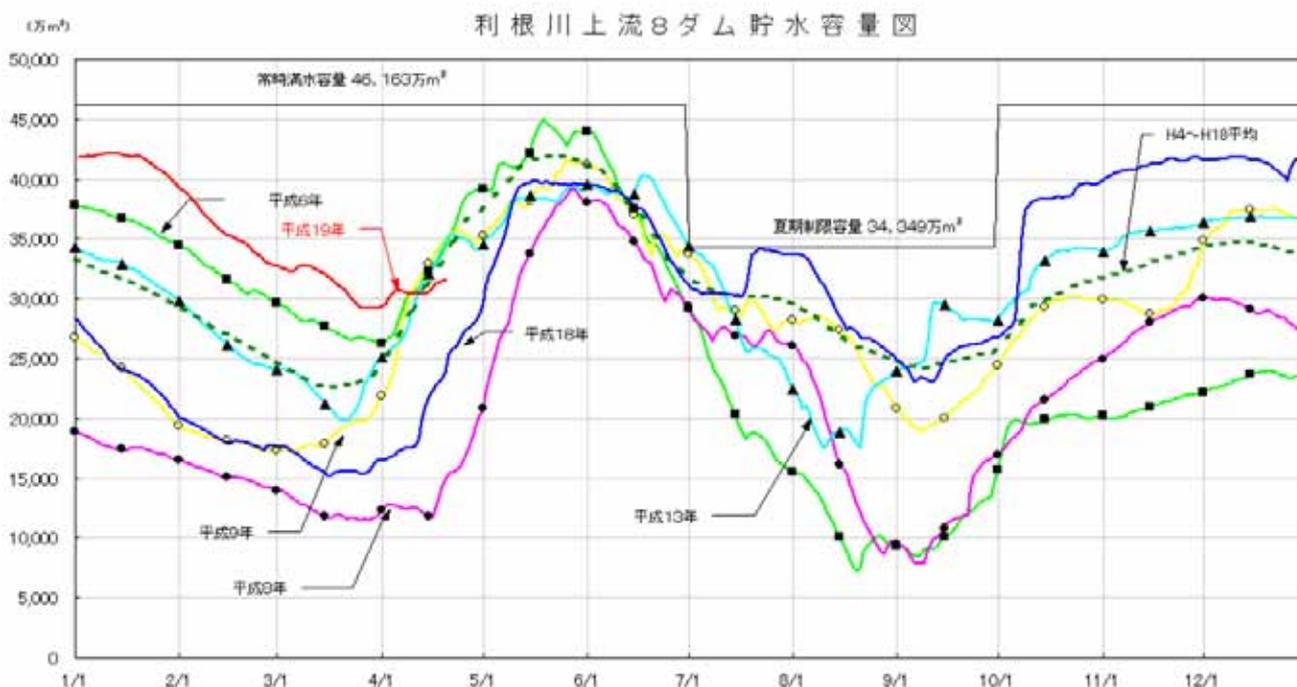
表-3 利根川上流8ダム貯水量

平成19年4月19日9時現在

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
矢木沢ダム	11,550	4,678	41	51
奈良俣ダム	8,500	7,308	86	-45
藤原ダム	3,101	1,344	43	12
相俣ダム	2,000	1,372	69	-28
園原ダム	1,322	207	16	71
下久保ダム	12,000	11,128	93	-12
草木ダム	5,050	4,377	87	-34
渡良瀬貯水池	2,640	1,097	42	-42
8ダム合計	46,163	31,511	68	-27

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)

図-5

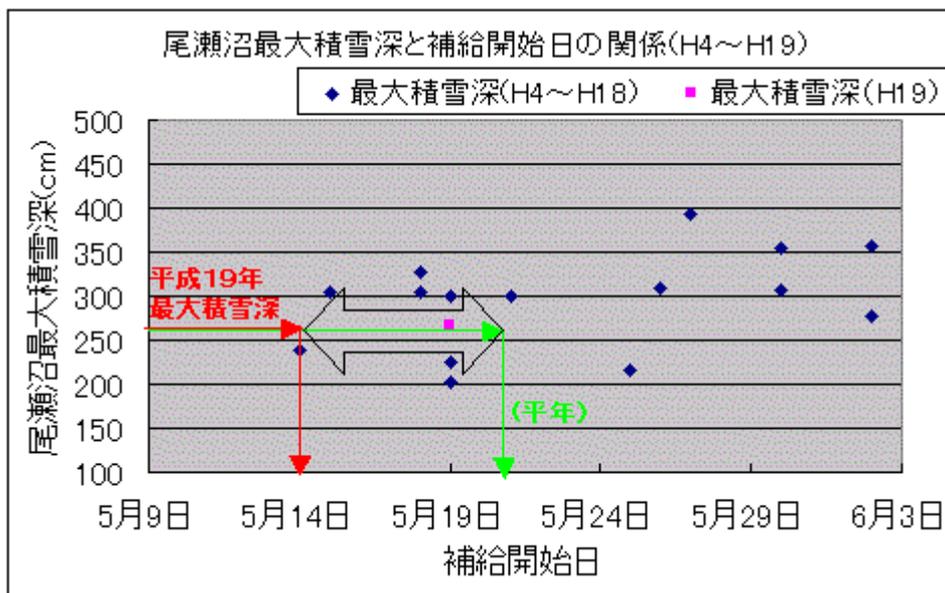


(5) 今後の流出量の予測

1. 最大積雪深と補給開始日の関係

利根川上流ダム群からの補給開始は、記録的な暖冬と少雪の影響で、早ければ平年より1週間早い、5月14日頃からと予測されます。(図-6参照)

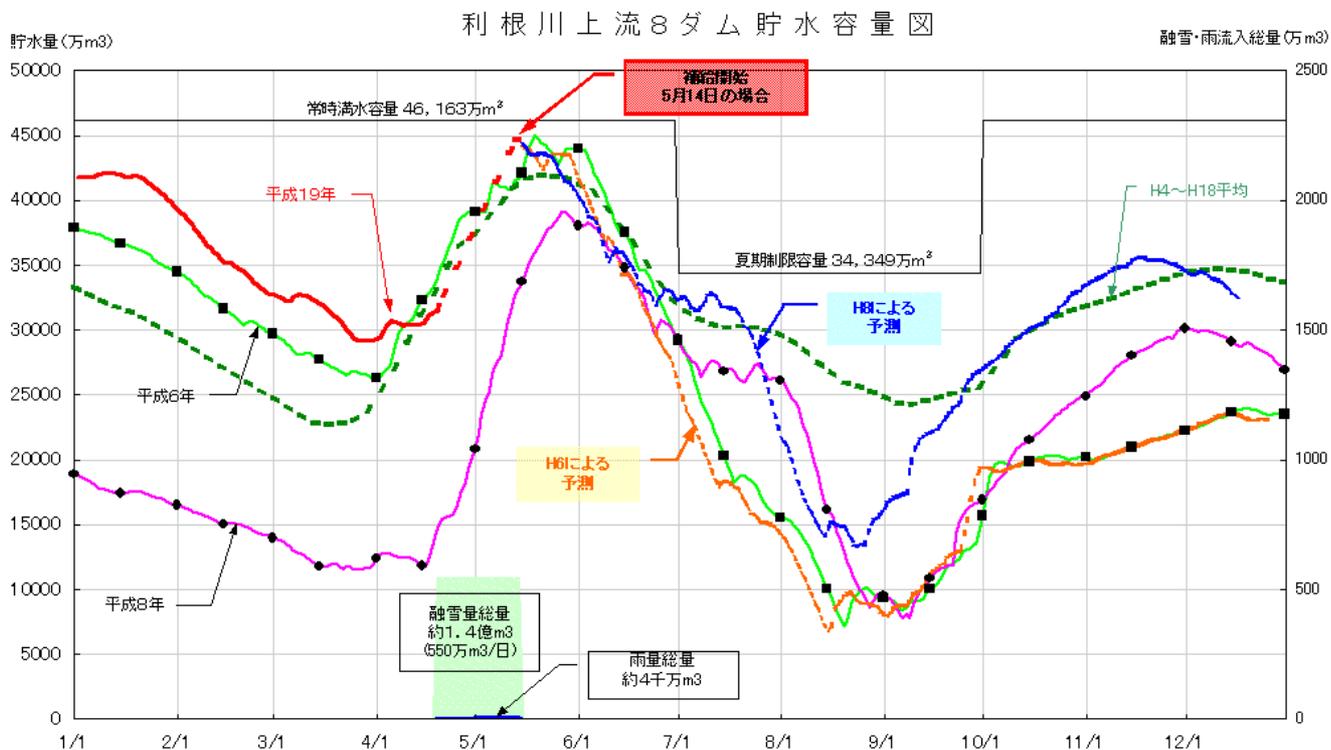
図-6 尾瀬沼最大積雪深と補給開始日の関係



2. 融雪出水と補給の予測

ダムからの補給開始を5月14日からと想定し、少雨により平成6年、平成8年と同様のダム補給となった場合には、厳しい水運用が予想されます。(図-7参照)

図-7 補給予測図



(6) 北千葉導水路の運用

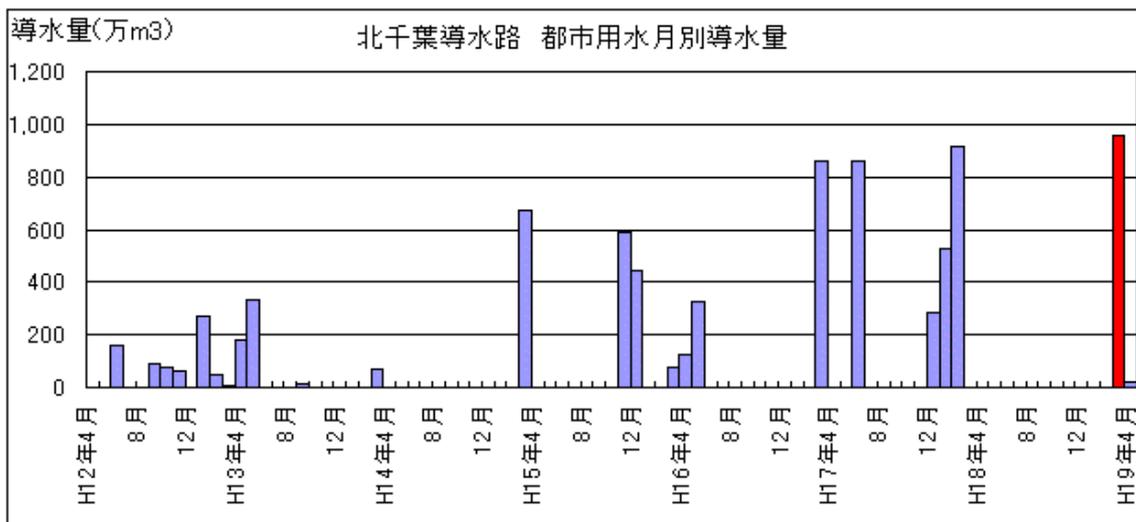
平成19年3月1日から、利根川の流況が豊富で、江戸川の流況が低減した時に、累計約980万<sup>3</sup>の導水を実施しました。その結果、上流ダム群の約2,300万<sup>3</sup>に相当する貯水量を温存し、江戸川の取水の安定を図りました。また、平成18年度3月の月間導水量としては、運用を開始した平成12年度以降で最も多い導水量となりました。(表-4、図-8参照)

表-4 北千葉導水路年間導水量

単位：万<sup>3</sup>

年 度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
年間導水量	726	599	676	1,109	1,313	2,585	958	23

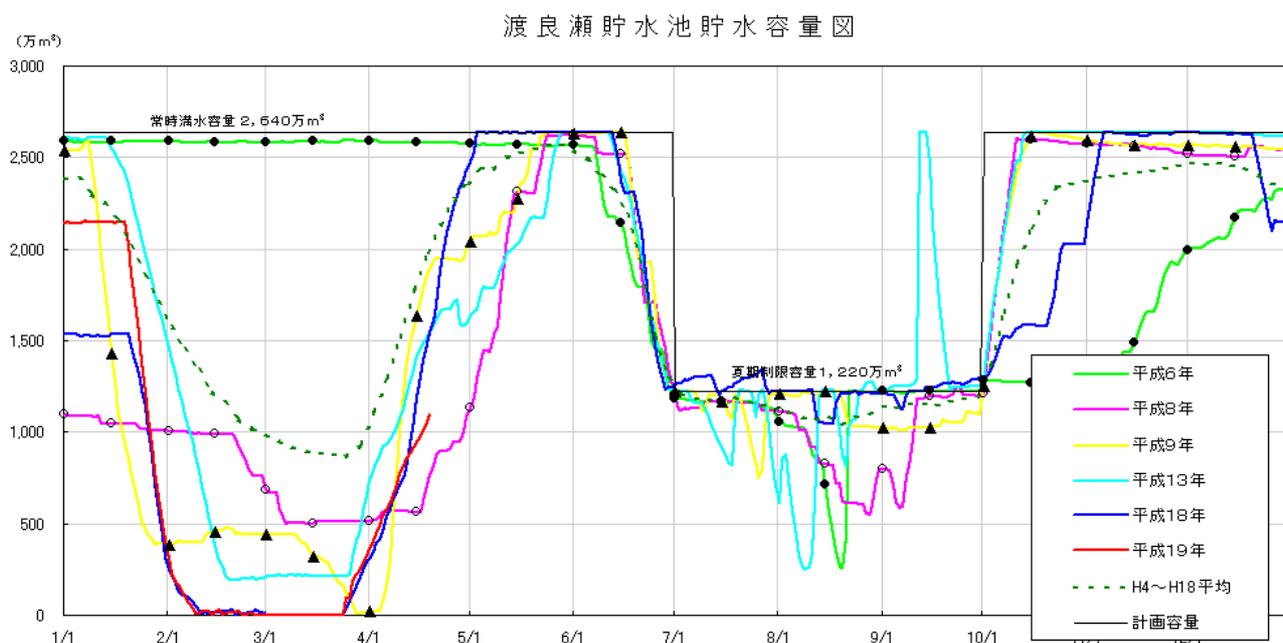
図-8



(6) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善等のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。今年も干し上げを行い、現在は貯留を行っています。平成19年4月19日9時現在の貯水量は、1,097万<sup>3</sup>、常時満水容量2,640万<sup>3</sup>に対して42%、平年の貯水量2,017万<sup>3</sup>に対して54%と平年を下回っています。(図-9参照)

図-9



## 2) 鬼怒川水系

### (1) 降水量

平成18年の鬼怒川佐貫上流域平均降水量は、1月から6月は平年を下回りましたが、7月は312mm(平年224mm)と平年を大幅に上回りました。

8月は90mm(平年282mm)と平年を大幅に下回り、8月の降水量としては、昭和47年以降で最も少ない降水量となりました。9月は平年並みとなり、10月から12月は平年並を上回るの降水量となりました。

平成19年に入ると少雨で、1月と2月、3月は、それぞれ31mm(平年50mm)、15mm(平年54mm)、21mm(平年76mm)と、いずれも平年を下回りました。1月から4月18日までの累加降水量は85mm(平年1月～4月までの累加285mm)と平年の30%となっており、昭和47年以降で最も少ない降水量となっています。(図-10、表-5参照)

図 - 10



表 - 5 鬼怒川佐貫上流域平均降水量

	単位(mm)												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980
平成18年	32	34	36	50	111	167	312	90	260	212	118	78	1,500
平年(S47 - H18)	50	54	76	105	120	178	224	282	273	143	93	39	1,637
平成19年	31	15	21	18									85
平年比(%)	62	28	28	17									5

平成19年4月18日まで

・ 鬼怒川佐貫上流域面積 940km<sup>2</sup>

(2) 鬼怒川上流ダム群の貯水状況

平成18年の鬼怒川上流3ダムの貯水量は、4月以降は平年を上回る貯水量で推移し、非洪水期に移行した10月に入ってから、前線や低気圧の降雨により、貯水量は大幅に回復しました。また、12月にも降雨がありこの時期としては、昭和60年以降で最も多い貯水量となりました。

平成19年も、平年を上回る貯水量で推移し、4月15日には、貯水量1億7,249万 $m^3$ 、貯水率96%に達し、以降、下流の必要量を満足させるため補給となっています。

平成19年4月19日0時現在の貯水量は、1億6,998万 $m^3$ 、常時満水容量1億8,034万 $m^3$ に対して94%、平年の貯水量1億5,883万 $m^3$ に対して107%と平年を上回っています。

また、平成18年10月に竣工し、平成19年3月1日から運用を開始した鬼怒川上流ダム群連携事業により、ダム下流の男鹿川の維持流量0.7 $m^3/s$ を1 $m^3/s$ に改善しています。(表-6、図-11参照)

表 - 6

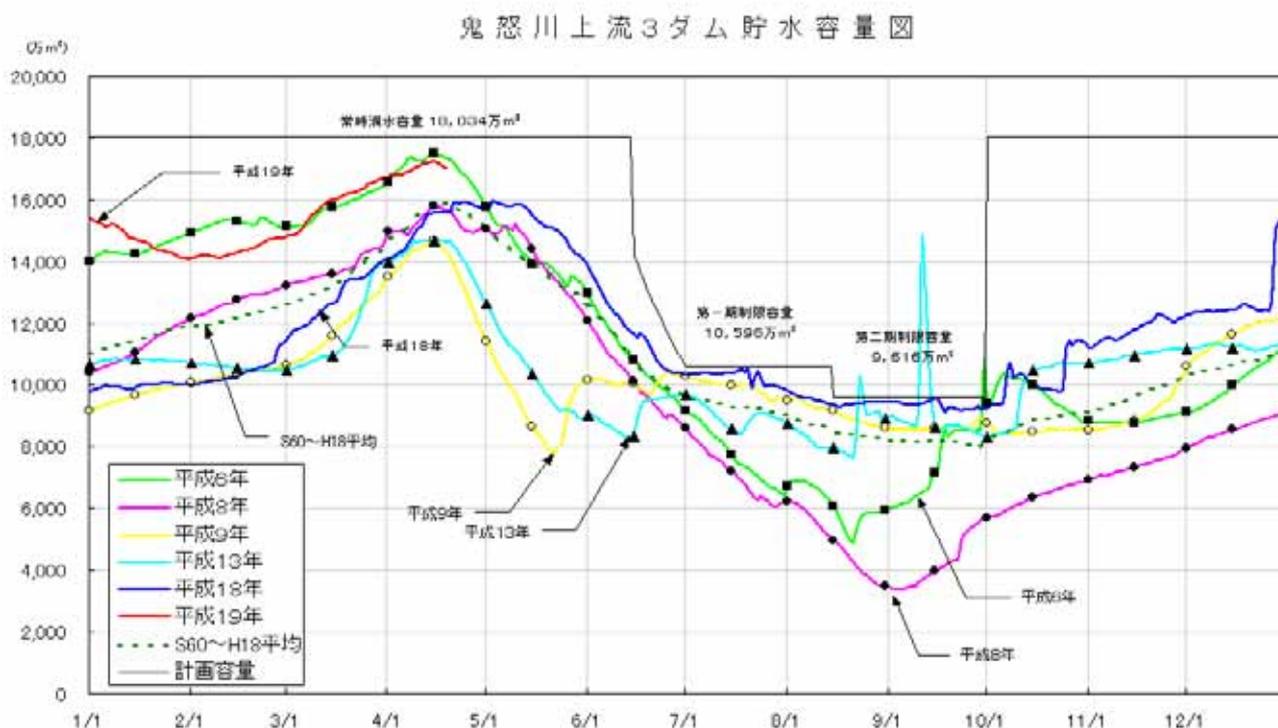
鬼怒川上流3ダム貯水量

平成19年4月19日0時現在

ダム名	有効容量 (万 $m^3$ )	貯水量 (万 $m^3$ )	貯水率 (%)	前日補給量 (万 $m^3$ /日)	適 用
五十里ダム	3,123	2,749	88	73	
川俣ダム	7,311	7,175	98	3	
川治ダム	7,600	7,074	93	-4	
3ダム合計	18,034	16,998	94	72	

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)

図 - 1 1



### 3) 荒川水系

#### (1) 降水量

平成18年の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、3月から6月にかけて少雨となりました。7月は平年を上回る降水量となり、8月、9月は平年を下回りましたが、10月から12月は平年を上回りました。

平成19年に入ると、1月と2月、3月は、それぞれ27mm(平年35mm)、10mm(平年40mm)、26mm(平年68mm)と、いずれも平年を下回りました。1月から4月18日までの累加降水量は142mm(平年1月～4月までの累加236mm)と平年の60%となっており、昭和40年以降で5番目に少ない降水量となっています。(図-12、表-7参照)

図 - 1 2



表 - 7 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

単位(mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657
平成18年	22	67	38	59	121	125	229	127	190	305	87	129	1,499
平年(S40 - H18)	35	40	68	93	112	158	185	223	229	145	61	28	1,377
平成19年	27	10	26	79									142
平年比(%)	77	25	38	85									10

平成19年4月18日まで

・ 荒川秋ヶ瀬上流域面積 2,021km<sup>2</sup>

(2) 荒川3ダムの貯水状況

平成18年の荒川3ダムの貯水量は1月から、平年以上の貯水量となっていました。少雨の影響により、8月下旬から補給となり、9月1日には、3ダム体制となった平成13年以降、最も少ない貯水量となりました。

それ以降、降雨の影響に伴い貯水量が回復し、非洪水期に移行した10月に入ってから、前線や低気圧の降雨により、貯水量は大幅に回復しました。また、12月にも降雨がありこの時期としては、平成12年以降で最も多い貯水量となりました。

平成19年に入ってから、平年を上回る貯水量となっており、平成19年4月19日9時現在の貯水量は、7,065万m<sup>3</sup>、常時満水容量8,620万m<sup>3</sup>に対して82%、平年の貯水量6,391万m<sup>3</sup>に対して111%と平年を上回っています。(表-8、図-13参照)

表-8 荒川3ダム貯水量

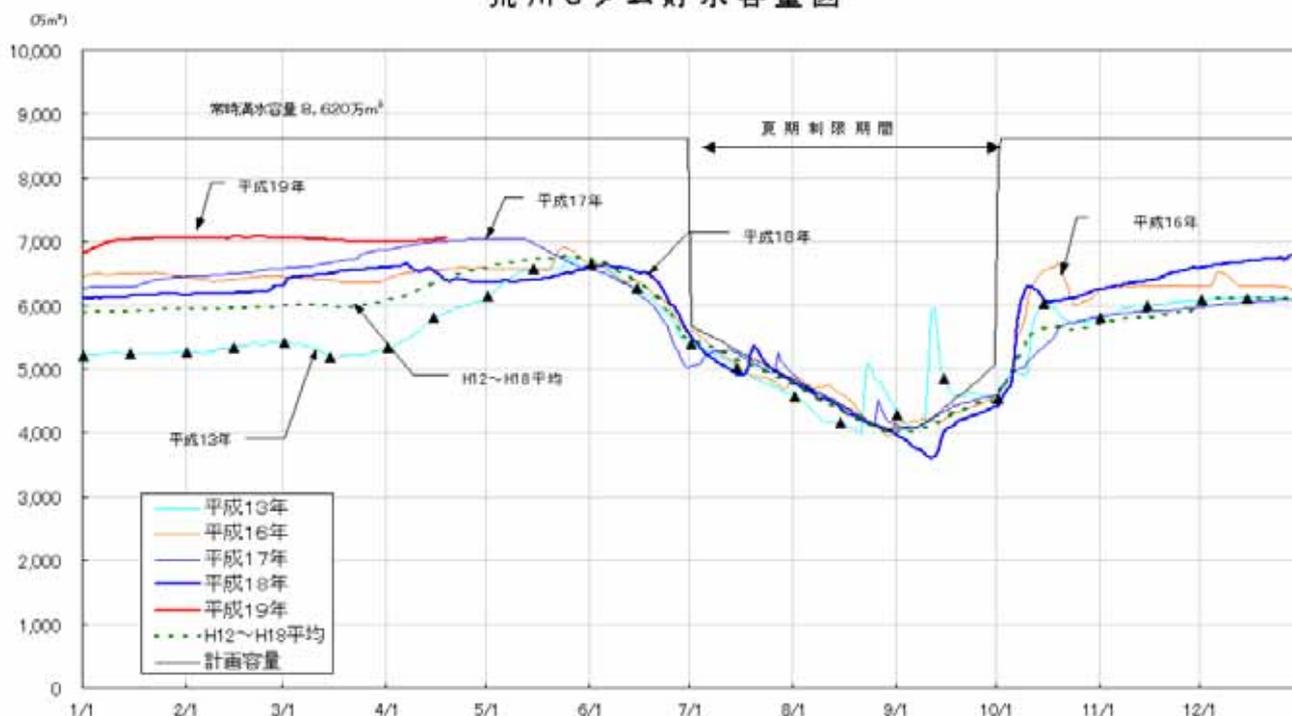
平成19年4月19日9時現在

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
二瀬ダム	2,000	1,879	94	-5
荒川貯水池	1,020	1,025	100	-3
浦山ダム	5,600	4,161	74	-12
3ダム合計	8,620	7,065	82	-20

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)

図-13

荒川3ダム貯水容量図



#### 4) 多摩川水系

##### (1) 降水量

平成18年の小河内ダム上流域の降水量は、2月と7月、10月～12月を除き、平年を下回りました。

平成19年に入り、1月と2月、3月は、それぞれ39mm(平年45mm)、34mm(平年56mm)、53mm(平年91mm)といずれも平年を下回りました。1月から4月18日までの累加降水量は210mm(平年1月～4月までの累加301mm)と平年の70%となっています。(図-14、表-9参照)

図 - 1 4

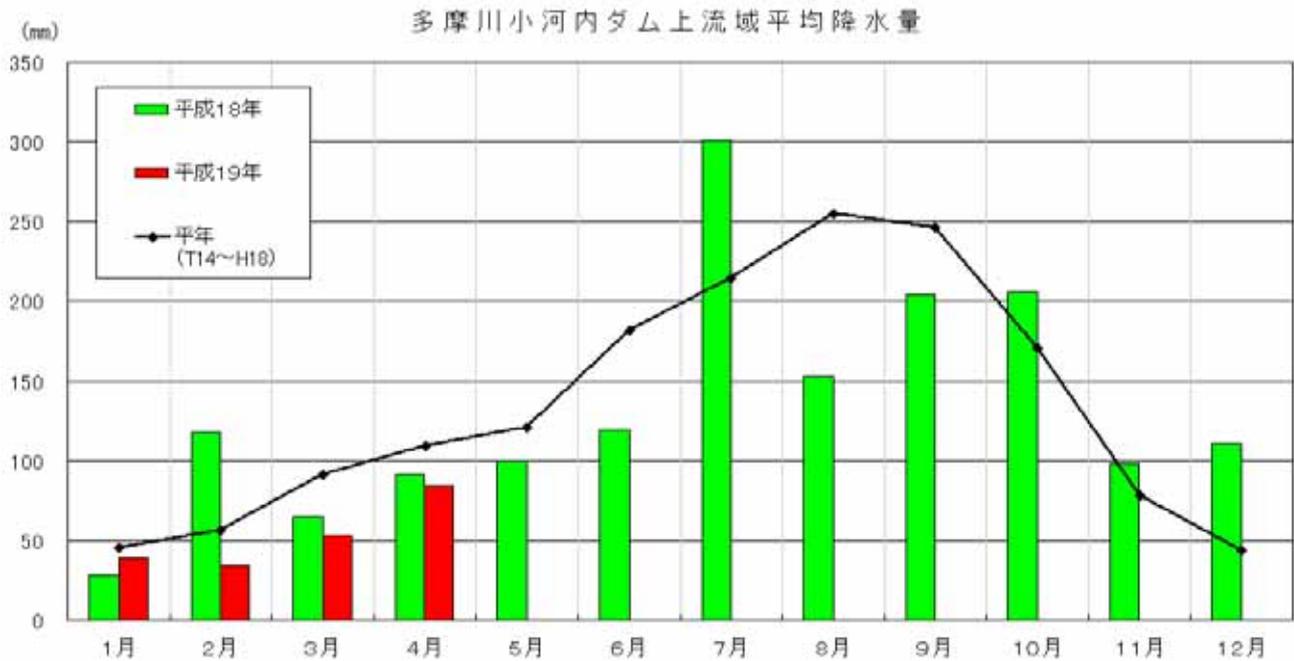


表 - 9 多摩川小河内ダム上流域降水量

	単位(mm)												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
平成18年	28	118	65	91	100	119	301	153	204	206	98	111	1,595
平年(T14 - H18)	45	56	91	109	121	182	214	255	246	171	78	44	1,612
平成19年	39	34	53	84									210
平年比(%)	87	61	58	77									13

平成19年4月18日まで

・端数処理の関係で合計欄の数値が合わないことがあります。

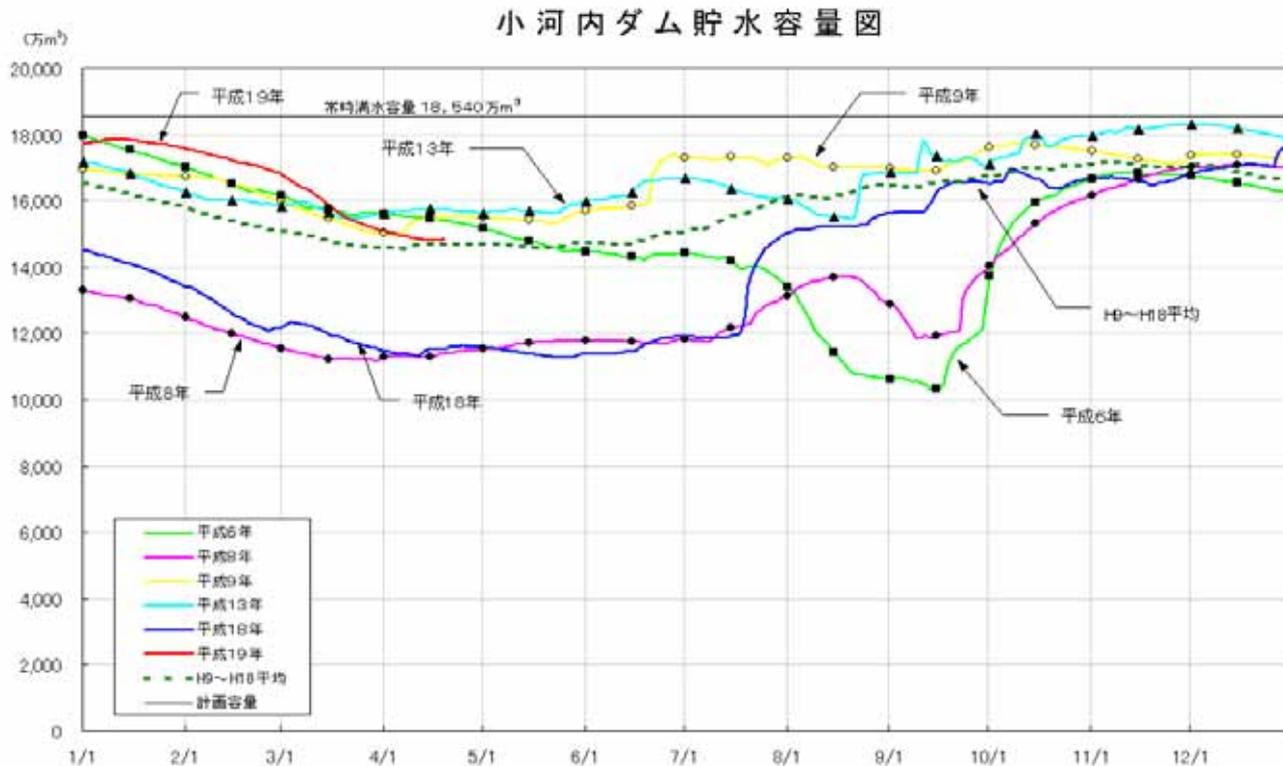
・小河内上流域面積 262km<sup>2</sup>

(2) 小河内ダムの貯水状況

平成19年の小河内ダムの貯水量は、平成19年4月19日7時現在で約1億4,843万 $m^3$ 、常時満水容量1億8,540万 $m^3$ に対して貯水率80%となっています。

また、平年の貯水量約1億4,671万 $m^3$ に対して、101%と平年並みとなっています。(図-15参照)

図 - 15



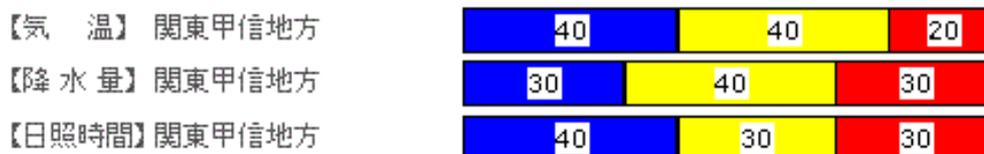
## 2. 今後の見通し及び対策

### (1) 見通し

平成19年4月13日発表の気象庁の1か月予報によると、4月14日から5月13日の関東甲信地方の降水量については、「平年並」となっており、3月22日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、4月は「平年並」か「少ない」となっており、5月は「少ない」、6月は「平年並」となっています。

#### 1か月予報（平成19年4月13日発表）

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

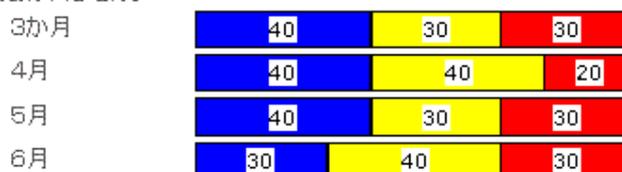


凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 3か月予報（平成19年3月22日発表）

【降水量】

関東甲信地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

利根川上流5ダムは、毎年4月から5月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では5月の中旬にほぼ満水となります。

今年は、ダムの水源となる山岳部では、平年を下回る積雪ではあるものの、今後、降雨と融雪水により、矢木沢ダム、奈良保ダム、藤原ダム、菌原ダム、相保ダム、渡良瀬貯水池は満水となる見込みですが、流域全体としての融雪量が少ないと見込まれることから、ダムからの補給が早まることも予測されます。

また、下久保ダム、草木ダムは、平年並みの貯水量となっていますが、融雪水がほとんどなく、融雪水により満水になることは期待出来ません。このため、今後の降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも考えられます。

鬼怒川上流3ダムは、4月15日にほぼ満水となり、現在は下流の農業用水の需要を確保するための補給を実施しております。今後も水需要期に必要な水量を確保するためダムからの補給を行っていきませんが、今後の降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

### (2) 対策

[ 利根川水系における上流ダム群の貯水量の確保 ]

今後、本年の利根川上流域の積雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や積雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

[ 利根川水系渇水対策連絡協議会の取り組み ]

利根川渇水対策連絡協議会としては、現在のダム等の水供給能力が、首都圏の水需要の大きさに対して十分とはいえない状況にかんがみ、さらに幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

### 3. 非洪水期における工事制限水位等について

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間												
				平成19年								平成20年				
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利根川上流ダム群	藤原ダム	藤原ダム法面対策工事	法面の崩落による影響を防ぐための法面対策工事を実施する。				7/20									3/30
		制限貯水位 EL.634.0m 制限期間 平成19年10月1日から平成20年1月31日	EL651.0m 31,010千m <sup>3</sup>	EL639.0m 14,690千m <sup>3</sup>	EL634.0m 9,260千m <sup>3</sup>	EL651.0m 31,010千m <sup>3</sup>	10/1	1/31								
		表面取水設備スクリーン交換	経年劣化により腐食の著しい表面取水塔スクリーンの補修を実施する。							9/20						
	相模ダム	制限貯水位 EL.634.0m 制限期間 平成19年10月1日から平成20年3月30日	EL651.0m 31,010千m <sup>3</sup>	EL639.0m 14,690千m <sup>3</sup>	EL634.0m 9,260千m <sup>3</sup>	EL651.0m 31,010千m <sup>3</sup>	10/1	3/30								
		クレストゲート水密ゴム交換	水密ゴムの経年劣化や変形によるゲート本体への影響を回避するため交換を実施する。							9/20						
	矢木沢ダム	制限貯水位 EL552.0m 制限期間 平成19年10月1日から平成20年1月15日	EL565.0m 20,000千m <sup>3</sup>	EL553.0m 10,223千m <sup>3</sup>	EL552.0m 9,534千m <sup>3</sup>	EL565.0m 20,000千m <sup>3</sup>	10/1	1/15								
矢木沢発電所放水底修繕工事他		経年劣化により補修が必要な放水底内施設の修繕工事を実施する。														
利根川上流	渡良瀬遊水池	干し上げ	水質環境改善のため、貯水池内の水位を低下させ干し上げを実施する。													
		*干し上げ期間は、昨年度同様の約40日間を予定している。なお、詳細については、「渡良瀬貯水池水質改善検討委員会」において、検討する予定である。 制限貯水位 Y.P.+0.5m (最低水位) 制限期間 干し上げ期間：2月中旬～3月下旬程度	EL850.0m 115,500千m <sup>3</sup>	EL840.0m 72,500千m <sup>3</sup>	EL840.0m 115,500千m <sup>3</sup>	Y.P.+11.5m	Y.P.+15.0m	10/11	26,400千m <sup>3</sup>	Y.P.+0.5m	0千m <sup>3</sup>					

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間												
				平成19年								平成20年				
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
鬼怒川上流ダム群	川治ダム	堆砂除去工事	貯水池内の堆砂掘削工事を実施する。													
		制限貯水位 EL594.0m 制限期間 平成19年10月1日から平成19年10月31日 (堆砂除去期間：7月1日から10月31日)	EL616.0m	EL594.0m	EL594.0m	40,000千m <sup>3</sup>	EL594.0m	10/31								